

2016年9月15日

GEヘルスケア、半導体検出器を搭載したPET/CTとSPECT/CT装置を発売

GEヘルスケア・ジャパンは、この度半導体検出器を搭載したPET/CT装置と、SPECT/CT装置を発売した。併せて、PET診療を支援する読影ソリューションも発売した。

新たに発売されたPET/CTは、半導体検出器を搭載。画像上のノイズを低減し、TOF(Time of flight)時間分解能を向上させたことで、病変を見るための解像度が従来の2倍に向上した。感度と雑音等価計数率(NECR)は約20%向上し、検査時間を従来の半分に抑え、ET/CTによる被ばく量を従来比2分の1に低減している。

全身用SPECT/CTは、新たにテルル化亜鉛カドミウム(CZT)検出器を採用している。CZT検出器は、ガンマ線を直接電気信号に変換し、効率・精度の良い信号処理を実施するため、散乱線成分を低減し、低ノイズの画像を取得できる。

また、エネルギー分解能・コントラスト分解能の向上により、2核種同時収集検査の精度も向上している。被ばく量・検査時間を従来の2分の1にすることで、従来は別日に分けていた2つの検査が1日で実施でき、患者の負担も軽減するという。

同時に発売されたPET診療を支援する読影ソリューションは、PET読影に必要なCT/MRIなどの過去画像を自動で取得するほか、PET読影に必要なSUVなどの解析機能も備えた。さらに、同社独自の画像レイアウト学習機能「SRP(Smart Reading Protocol)」を搭載。最適な画像レイアウトで読影を開始でき、読影効率が従来比19%向上した。

以上